

## ■ 全体講評

今回の公開模試における午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の採点結果だけから判断すると、技術レベルの高い一部の受験者を除き、全体的にはまだまだ準備不足という印象を受けました。ちなみに、問題ごとの平均点は午後Ⅰ（50点満点）の問1が13.9点、問2が15.8点、問3が20.3点、午後Ⅰ全体の平均点は34.0点でした。また、午後Ⅱ（100点満点）では、問1が33.8点、問2が33.1点で、問1も問2も、ほぼ同じ点数になりました。なお、問題ごとの選択状況は、午後Ⅰ試験の問1が28.0%、問2が34.6%、問3が37.4%で、問3の選択者が最も多くなっています。午後Ⅱ試験では、問1が64.0%に対し、問2は36.0%でした。問2は、IPv4とIPv6の共存環境の問題でしたから、選択率はかなり低いと想定していました。しかし、想定よりも多くの受験者が選択していたと思います。

今回の午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の問題は、そのほとんどが個別の技術内容に特化したものでしたから、特定分野の技術知識に詳しくなければ、得点することが難しかったと思います。このため、意外な結果に終わったという受験者も多いのではないのでしょうか。また、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験とも、バランスよく得点できたという受験者も少なかったと思います。いずれにしても10月17日の本試験で合格するには、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験とも合格基準点の60点をクリアすることが必要です。このことを念頭におき、これから準備をしていく必要があります。

次に、重要なことは記述式の問題に対する取組み方です。記述式の問題の多くは、下線に関するものが出題されます。解答を作成する際には、どうしても下線部にだけ着目しがちです。しかし、下線部にだけ着目すると、その前後にある条件などを見落とし、答案としては的を外したものとなりません。今回の模試でも、こうした内容の答案が数多く見られ、点数を失っていました。設問で問われていることを確認した上で、下線部に関する全体の関係をよく把握し、解答を作成していくようにしましょう。本番の試験で合格基準点をクリアするには、キーワードをしっかりと押さえた答案を作成することが重要なポイントになってきます。

今回の公開模試における合否の判定レベルは、全体的に正答率が低かったことなどから厳しい判定になっていると思われます。この判定に固執することなく、10月の試験では、日ごろの学習成果を十分に発揮するようにしてください。そして、記述式問題の解答作成にあた

っては、既に述べたように、設問で何が問われているかを必ず確認するほか、不要な修飾語はできるだけ削除し、ポイントになる内容を分かりやすく記述することです。今回の公開模試でも、設問で問われていること以外の内容を答えているものや、無駄な修飾語が多く、肝心のことが記入できていない答案が数多く見られました。これらの点は改善していくことが必要です。

ネットワークスペシャリスト試験は、今回が2回目の試験になります。昨年の午後Ⅰ、午後Ⅱ試験の難易度などを評価すると、午後Ⅰは標準レベル、午後Ⅱはやや難という印象でした。ちなみに、第1回の午後Ⅰ試験の合格率は57.7%であったのに対し、午後Ⅱ試験の合格率は48.5%でした。また、午後Ⅱ試験では、問1の方が難しかったようです。合格基準点が60点ですから、やさしい問題を選択した方が合格しやすいと考えがちです。しかし、試験センターでは「試験結果に問題の難易差が認められた場合には、基準点の変更を行うことがあります」としています。このため、午後Ⅱ試験においては、問1と問2の難易差をあまり気にせず、一度選択すると決めた問題を最後までやり遂げる必要があります。その半面、午後Ⅰ試験は、3問のうち、2問の選択ですから、午後Ⅱ試験のように基準点の変更が行われることはないと考えられます。なお、記述式の問題では、採点基準などによって10～20点の違いは出てきます。試験センターの発表する解答例に照らし合わせて不合格と判断しても、結果的には合格するケースもあります。また、採点者が答案内容をどのように評価するかによっても大きく異なってきます。更に、全体的な正答率などを考慮しながら、少し甘めに採点することも考えられますので、論理的にすっきりした内容の答案を作成しておくようにするとよいでしょう。

試験当日は、集中力、精神力、体力の勝負になります。午後Ⅱ試験の最後まで、あきらめずに必ず合格するという強い意志をもって臨むようにしましょう。

## <午後Ⅰ>

### 問1 ネットワークの信頼性対策

#### 【採点基準】

#### 【設問1】

- (1) aは、解答例どおりのみ2点。
- (2) 収容局に至る経路が異なるというキーワードが適切に指摘されているものに対し6点。内容が今一步のものは3点。その他は0点。

## 【設問2】

- (1) b ~ e は、解答例どおりのみ各 2 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨、あるいは「プリエンプトモードをオフにする」旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

## 【設問3】

- (1) f, g は、解答例どおりのみ各 2 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。内容が今一步のものは 3 点。その他は 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

## 【講評】

問 1 の選択者数の比率は 28.0%で、午後 I の 3 問の中では、最も低い選択率でした。また、実務知識が要求される問題などがあったことから、平均正答率も 27.9% (平均点では 13.9 点) で、最も低い正答率でした。

この問題では、穴埋め問題を 7 問出題しました。一部の専門用語を除き、7 問中、5 問は正解できると想定していました。しかし、大半は 4 問以下の正解数であったと思います。基本的な技術用語は、しっかりと覚えておくことが必要です。

記述式の問題の中では、設問 1 (2)、設問 2 (2)、設問 3 (2)が基本的な問題と考えていました。設問 2 (2)は、想定どおり、よくできていました。しかし、その他は少し期待外れでした。特に、設問 3 (2)は、設問で「スイッチングハブの動作に着目し」という指示があるにもかかわらず、スイッチングハブがブロードキャストやマルチキャストフレームを受信したときの動作 (受信ポート以外にフラディングすること) が、正確に理解されていないと感じられました。

なお、設問 2 (3)では、OSPF の収束時間よりも大きいプリエンプトディレイを設定する旨の答案も見られ、実務知識に極めて詳しい受験者も見られました。

## 問2 DNS のセキュリティ問題

### 【採点基準】

#### 【設問1】

a ~ d は、解答例どおりのみ各 2 点。

#### 【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨 (許可する DNS ポートが 53 に固定されている) が適切に指摘されているものに対し 6 点。内容が今一步のもの (静的フィルタリングを行っているなど) は 3 点。その他は 0 点。

#### 【設問4】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。内容が今一步のもの (例えば、FW では IP や TCP/UDP ヘッダの条件を満たせば通過させるなど) は 3 点。その他は 0 点。

## 【講評】

問 2 の選択者数の比率は 34.6%で、午後 I の平均的な選択率を若干、上回りました。平均正答率は 31.6% (平均点では 15.8 点) で、想定していたよりも少し低めでした。

設問 1 では、空欄 a の正答率が低かったようです。DNS に登録する資源レコードの種類については、基本的な知識といえます。A, MX, NS, PTR, SOA, TXT などのタイプについては、何をやるものかなどをよく把握しておきましょう。

設問 2 ~ 4 の記述式問題は、一部の高得点の受験者を除き、ほぼ想定どおりでした。記述式問題は、いくら問題の記述内容を確認しながら解答を作成する必要があるといっても、一定レベルの技術知識がなければ、なかなか的確に解答を作成していくことはできません。一つ一つの積重ねが大変重要であるという意識をもって、学習していくことも重要です。こうした地道な努力も忘れないようにしましょう。

## 問3 検疫ネットワークの導入

### 【採点基準】

#### 【設問1】

a ~ g は、解答例どおりのみ各 2 点。

#### 【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問3】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【講評】

問 3 の選択者数の比率は 37.4% で、午後 I の 3 問の中では最も高い選択率でした。また、平均正答率は 40.6% (平均点では 20.3 点) であり、想定していたよりも、少し良い結果でした。

設問 1 の穴埋め問題の正答率は、かなり高かったようです。7 問中、5 問できればよいと想定していましたが、多くの方が 6 問以上、正解されていました。検疫ネットワークの基本的な知識については、かなり理解されていると感じられます。

その半面、設問 2 (1)や(2)は、やや期待外れでした。特に、IP アドレスの重複検査を行う Gratuitous ARP (GARP) の動作については、よく理解されていないようです。GARP を送信した側では、その応答があると、IP アドレスに重複があったことが判明するので、その IP アドレスを破棄します。このため、事前に設定した IP アドレスは使用できないということになります。設問 2 (2)では、システム内の管理サーバが GARP に対し応答する場合の条件を問うています。T 君は、「妨害されるべき PC を特定するには、事前にシステム内の管理サーバに正規 PC の MAC (空欄 e) を登録して……」と発言しています。問題の記述内容を十分に確認しながら解答を考えるようにすれば、正解を導くことができますので、安易に考えるのではなく、問題をよく読んで解答を考えていくことが大切です。

### <午後 II>

#### 問1 ネットワークの再構築

##### 【採点基準】

##### 【設問1】

(1) a は、解答例どおりのみ 2 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。内容が今一步のものは 4 点。その他は 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

##### 【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) 物理スイッチに VM の MAC アドレスを学習させる旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。内容が今一步のもの (切替え後の MAC アドレスを周知するなど) は 4 点。その他は 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 4 点。その他は、基本的に 0 点。

##### 【設問3】

(1) b ~ d は、解答例どおりのみ各 2 点。

(2) 解答例と同様の趣旨 (UDP ポートを指摘したもの) が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

##### 【設問4】

(1) e, f は、解答例どおりのみ各 2 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

##### 【設問5】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【講評】

午後 II 問 1 の選択者数の比率は 64.0%、平均正答率は 33.8% でした。比較的難度が高いことなどから、やむなく問 2 を選択した受験者もいたのではないかと思います。なお、平均正答率は、ほぼ想定していたとおりででした。

設問 1 では、GRE でカプセル化することの意味や、MTU, MSS などの技術用語が十分に把握されていないように感じられました。的確に解答が作成できていないように感じられました。ネットワーク試験で午後 I、午後 II とも合格基準点をクリアするには、少なくとも専門用語を十分に理解しておく必要があります。本番の試験日まで残り少なくなりましたが、技術レベルを高めていくことは、合格への第一歩となることを忘れないようにしましょう。

設問 2 では、仮想化技術の問題を出題しました。全体的に正答率は、低かったように思います。特に設問 2 (1) は、問題文の(4)に「ICMP エコー応答パケットを受け取れば、物理サーバの障害と判断できるので、……」と記述されています。このため、物理スイッチを含むネットワーク側に障害がないことを確認する必要があること

が分かるので、問題文をよく読んで解答を作成していく姿勢を十分に身に付けてほしいと思います。

設問 3 (2)も同様です。設問では、「不正な DHCP サーバを探索するには、どのようなパケットを送信するとよいか」が問われています。このため、大半の答えは、DHCP ディスカバパケットをブロードキャストする旨を指摘したものでした。しかし、下線⑦の前に「ポートスキャンツールをコマンドラインから起動し、……」と記述されているので、DHCP サーバを見つけるには、どのようなポートを指定してパケットを送信する必要があるかを答える必要があります。このように、記述式の問題では、下線部だけを着目すると、求められているものと異なる解答をしてしまいます。本番の試験では、できるだけ全体の流れを把握しながら考えていくようにしましょう。

設問 4 (2)や(3)は、高度の専門知識が必要とされる問題です。本番の試験でも、このような問題が出題されることがあるので、できる問題とできない問題をしっかり区別して取り組むようにしましょう。

設問 5 は、比較的良好にできていました。なお、(2)の設問では、「認証が正常に行われるようになった理由」が問われているにもかかわらず、正常にできなかった理由を答えているものが幾つか見られました。できるだけ、設問で問われていることに忠実に答えていくことが必要です。

## 問2 IPv4 と IPv6 の共存環境

### 【採点基準】

#### 【設問1】

a ～ j は、解答例どおりのみ各 2 点。

#### 【設問2】

- (1) 解答例どおりのみ 8 点 (完答)。
- (2) 内部の PC とプロキシサーバ間は IPv4、プロキシサーバと外部は IPv6 で通信する旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。内容が今一步のものは 4 点。その他は 0 点。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨 (IPv6 アドレスでアクセス制御すること、アクセスログを 128 ビット対応にすること) が適切に指摘されているものに対し各 8 点。内容が今一步のものは 4 点。その他は 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

#### 【設問4】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

### 【講評】

午後 II 問 2 の選択者数の比率は 36.0%、平均正答率は 33.1%でした。平均正答率では、問 1 も問 2 も、ほぼ同じであり、IPv6 に関する理解が徐々に進んでいると考えられます。

設問 1 の穴埋め問題は、平均して 6 割程度の正答率であったと思われる、ほぼ想定どおりでした。

設問 2 (1)では、ほとんど逆引き用のドメイン名が正確に記述されていませんでした。問題の条件として明記されていますので、それらの条件をうまく反映させることが必要です。また、(2)では、社内の PC を IPv6 に対応させる必要がない理由を、具体的に指摘してほしいかと思えます。中には、プロキシサーバの機能を説明した答案もありましたが、これでは理由を説明したことにはなりません。

設問 3 (1)の正答率は、あまり高くありませんでしたが、(2)と(3)は、想定以上に高い正答率であったと思います。

設問 4 は、全体的に正答率はよくなかったと思います。特に、(3)は、PC に異なる IP アドレスが付与されるなどの解答が目立ちました。ネットワークセグメントが同じであれば、RA によって広告されるプレフィックスは同じものですから、PC は異なる IPv6 アドレスをもつことにはなりません。このあたりは、もう少し注意して考える必要があると感じられました。

いずれにしても、午後 II 試験では、問題の記述内容を理解し、設問で問われていることに的確に対応していくことが必要です。本試験では問題の条件などを十分に考慮しながら解答を作成するように心掛けましょう。

以上